

# 港区史編さんだより

～ 区民の皆さんと歩み、歴史を語り継ぐ～

発行：港区総務部総務課区史編さん担当

〒105-8511 港区芝公園 1-5-25/TEL 03-3578-2049/https://www.city.minato.tokyo.jp/



## 今号の表紙

空襲で焼け野原になった六本木の復興のシンボル、「奏でる乙女」像が立つ六本木通りの、1960年代の写真です。まだ高いビルもまばらですが、ほどなく地下鉄工事のためこの像は一時移設され、さらに高架の首都高速道路が開通します。脇を通る都営バスは、新橋ー永福町間の126系統。まだ車内に冷房はなく、乗客は窓を開けて暑さをしのいでいるようです。六本木の戦後復興について、詳しくは『図説 港区の歴史』P232をご覧ください。



## 目次

- |         |                 |             |
|---------|-----------------|-------------|
| Zoom Up | 高輪築堤の見学に行ってきました | ・・・・・・・・ P2 |
|         | 編さん過程のヒトコマ      | ・・・・・・・・ P3 |
| Pick Up | 区民インタビューを実施しました | ・・・・・・・・ P3 |

# Zoom Up 高輪築堤の見学に行ってきました

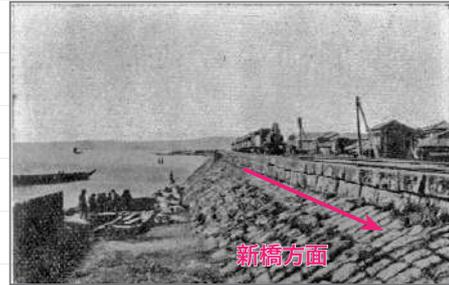
JR高輪ゲートウェイ駅付近で、明治初期に開業した日本初の鉄道の遺構である高輪築堤が出土したことは、昨年11月頃から、新聞やテレビなどで大きく報じられ、注目を集めています。4月20日、港区史編さん事業の事務局で、港区域の近代史を語る上で欠かせないこの貴重な遺構を見学しました。

明治初期に新橋～横浜間に日本初の鉄道が建設された際、本芝（現在の田町駅やや北）から品川駅までの間約2.7キロは、海上に築堤を建造し、その上に線路が敷設されました。

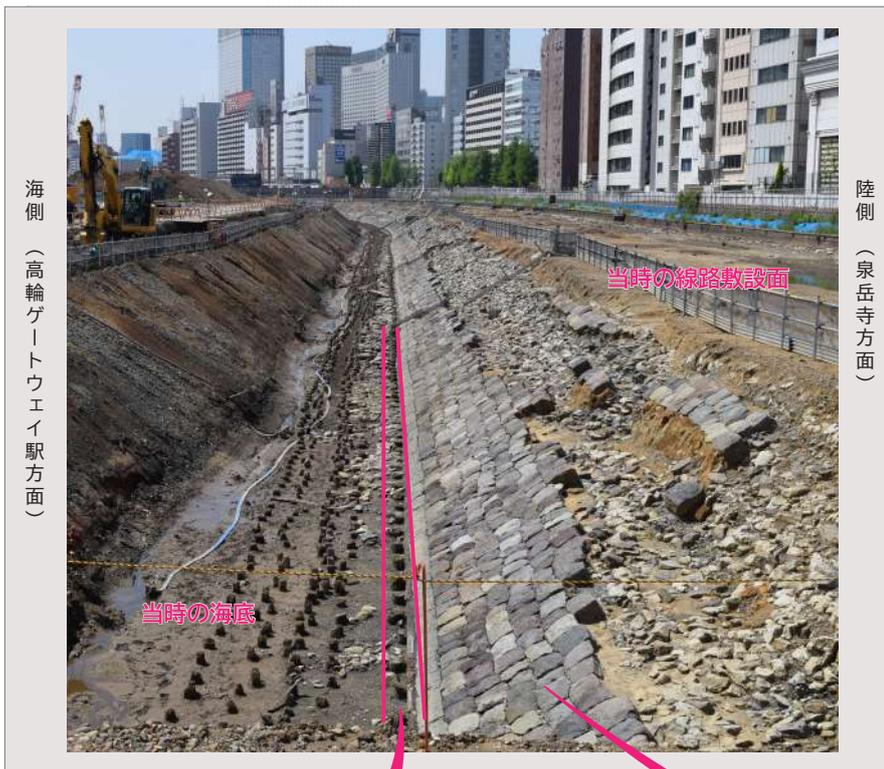
今回発見された築堤は、錦絵や古写真などからもその姿を知ることができます。しかし、明治末から昭和初期にかけて芝浦港南地区は埋立地として造成され、この築堤も既に取り壊されていると考えられており、その状態は長らく不明でした。



高輪鉄道之図  
(港区立郷土歴史館所蔵)



明治38年ごろの金杉付近  
(『芝区誌』p1687)



海側  
(高輪ゲートウェイ駅方面)

陸側  
(泉岳寺方面)

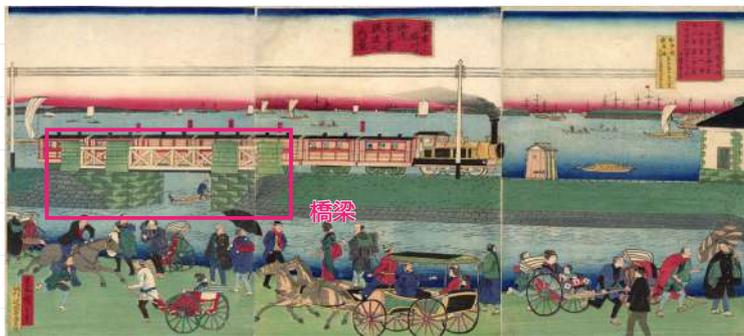
築堤の海側は木材の「胴木」を土台とする約30度の傾斜の石垣となっており、当時はこの石垣の下端から約1メートル上部が海水面でした。当時の海底には、多数の木製の杭（群杭）も確認できました。石垣の内部は石などが詰まった裏込めも確認できます。また、築堤の上（当時の線路敷設面）には、明治時代のバラスト（線路の敷石）も残されていました。



波消し及び海側の地盤補強を目的とした杭。2メートルほどの長さがあります。鉛筆削りで削ったかのように尖っていることが特徴的だそうです。

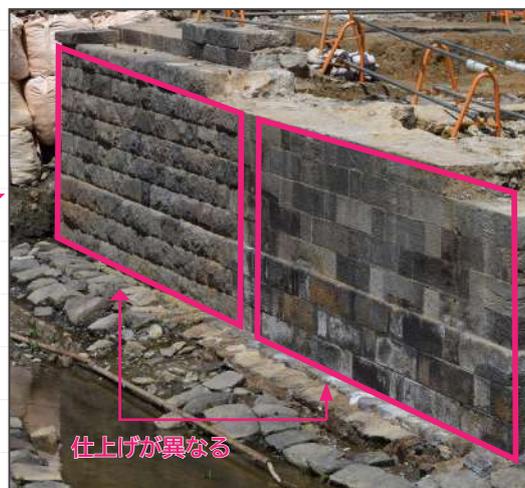


石垣に使われていた石。90センチほどの幅があります。近くで見るとその大きさに驚かされます。



水運や漁業のための船が東京湾に出入りする  
ための水路に架設されていたのが「橋梁」です。

東京品川海辺蒸気車鉄道之真景  
(港区立郷土歴史館所蔵)



写真のように「第七橋梁」の橋台が残されています。この橋台の石垣に使われている石材の表面は、海側(写真手前)と山側(写真奥)では仕上げが異なり、3線化で線路敷が拡幅された状況がわかります。

この築堤の遺構は、京浜東北線の線路を移設したところ、令和2年(2020)に、その真下で発見されました。大規模な遺構が良好な状態で残されていたため、近代史や考古学の研究者など有識者からは、現地での保存を求める声が上がっています。

8月23日には文化庁の文化審議会が文部科学大臣に対して、高輪築堤跡を国の史跡とするよう答申を行いました。これを受け、令和3年9月17日付で、第七橋梁部を含む80メートル部分と、将来港区の公園となる場所に残されている40メートル部分が、旧新橋停車場跡の遺構に追加される形で「旧新橋停車場跡及び高輪築堤跡」として、国指定史跡となりました。区史編さん事業にも関わるこの遺構の今後にも注目です。



高輪築堤について、『港区史』通史編  
近代(下)に掲載予定です。  
(令和4年(2022)3月刊行予定)。  
お楽しみに。

## Zoom Up 編さん過程のヒトコマ

### ■ 令和3年度第1回監修者会議 6月4日開催

令和5年3月刊行予定の『港区史』資料編の構成、各時代のページ配分、スケジュールについて検討を行いました。

### ■ 令和3年度第2回監修者会議 9月15日開催

第1回に引き続き、『港区史』資料編の構成、各時代のページ配分、スケジュール、版面レイアウト、『港区史』の献本について検討を行いました。

両日程について、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインで開催しました。

# Pick Up 区民インタビューを実施しました

令和元年度（2019）に始まった区史編さん企画「区民インタビュー」。今年度は、長らく福祉の面で活動されてきた方を中心にインタビューを行います。

9月1日、トップバッターとして、金井泰子さんにお話を伺いました。

## 金井泰子さん（インタビュー実施日：令和3年（2021）9月1日）



港区子ども会連合会 会長  
マルスクラブ子供会 会長  
芝消防少年団 団長  
愛宕交通少年団 団長 など

長く浜松町にお住まいで、昭和30年代の区立幼稚園と私立幼稚園の格差是正のための運動が、その後の活動のきっかけとなりました。

旧神明小学校PTA役員や青少年委員、保護司としても活躍され、現在は子ども会の会長として地域の子どもたちの成長を見守っていらっしゃいます。



「昔は神明小学校の校庭で星空観察ができたのよ」とお話しされる金井さん。時代の移り変わりとともに、子どもたちの生活や子ども会での遊びも変化してきました。

金井さんが青少年の健全育成に携わってこられたなかで感じることや、記憶に残っているエピソードについてお聞きしました。

10月6日には、男女平等参画推進の活動を長年されてきた南かほるさんのインタビューを実施しました。詳細は次号掲載予定です。インタビュー映像は、区史編さんサイト「デジタル版 港区のあゆみ」にて、今年度末に公開予定です。令和元年度（2019）に実施したインタビューは、既にご覧いただけます。是非ご覧ください。



「デジタル版 港区のあゆみ」って？

港区の歴史を今と未来をつなげる  
デジタルアーカイブです。

8月31日に更新し、トップページを芝大神宮のだらだら祭り(生姜祭)に変更しました。また、明治時代以降の港区内の写真を追加公開しました。是非インターネットでご覧ください。



## 編集後記

高輪築堤の見学では、海の上に線路を作ったということに改めて驚かされるとともに、当時の技術の一端も知ることができ、貴重な機会となりました。当時の鉄道を描いた浮世絵には人々も多く描かれていますが、港区域で暮らしていた人々は、どのような気持ちで海上を走る鉄道を眺めていたのでしょうか。

時代は下って、昭和からこれまで長い時間を港区で暮らし、福祉の分野で活動をしてこられた女性へのインタビュー企画も始まりました。公開の際には、本誌でお知らせしますので、是非ご覧ください。